



再生可能エネルギー普及の鍵 洋上風力発電の活用を目指す

—レノバ—

地域と共存共栄しながら グリーンで自立可能な エネルギー・システムを構築

世界で導入が広がる再生可能エネルギーだが、日本での大量導入を実現するには日本独特の地形や高コストといった課題への対応が求められている。その日本で、本気で再エネの主力電源化の実現に向け、これらの課題の克服に奮闘している事業者がレノバだ。



洋上風力発電の先進事例から知見を蓄積するため、デンマークへの視察を複数回実施している(右)。地域のお祭りに参加したり、環境教育に役立つ施設を建設したりするなど、長期的なパートナーとして地域との共存共栄を非常に大切にしている(上)



レノバのワン・チームで重要な役割の一つを担うのが、同社が独自に抱えるマルチエンジニア集団だ。これが三つ目の鍵となる。当社が目指すエンジニアリングとは、社会のニーズを正しく認識し、既存・新規の技術を選択し、それらを組み合わせ、最適な解を提供することだと考えています。そのため、当社には幅広い専門性を持ったマルチエンジニアが集まっています」と常務執行役員CTOでエンジニアリング本部長の小川知一氏は説明する。

先述したように、同社は一貫してプロジェクトをマネジメントする。初期検討から運転まで全ての工程を、結束力の強いワン・チームで行っているため、地域との対話や調査過程で発生する想定外の変更、最適解の追求に対して柔軟かつスピーディに対応できる。

現在、日本のみならず海外でも洋上風力の適地を調査・検討しているほか、将来的には浮体式洋上風力の開発も視野に入れている。風の強さや風車の大型化などを考えると、浮体式洋上風力にはバリエーションを起こせる可能性が高いと考えている。レノバは、着実に日本の再エネ業界を変革していくだろう。

地域に合う最適解を導く マルチエンジニア集団

小川知一
レノバ
常務執行役員 CTO
エンジニアリング本部長



福真清彦
レノバ
執行役員
プロジェクト推進本部長



再エネ主力電源化を 大規模洋上風力で実現

レノバの理念や覚悟について、執行役員プロジェクト推進本部長の福真清彦氏はこう語る。「当社は、自立可能、つまり持続的で市場競争力のある再エ

「一つ目は、地域との共存共栄です。エネルギー資源の多くは地域の自然の中にある。ですから、地域に貢献する事業であること、地域の方々の理解と協力を得ることが必要不可欠です。その地域と共に数十年という長い年月を

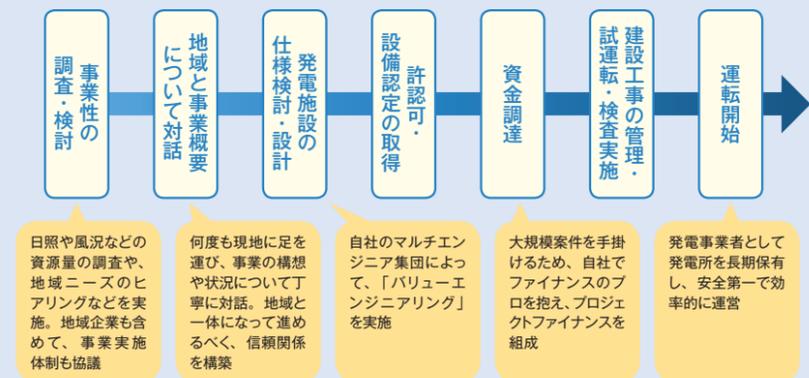
に長期に役立つ貢献の在り方を十分に検討し、事業計画を何度も練り直すのがレノバ流だ。「二つ目は、プロジェクトマネジメント力です。大規模再エネ開発では、膨大な項目を設計しつつ、並行して地域の行政や住民の方々と共に作り上げていく柔軟性と緻密さを備えたプロマネ力が必要だ」と(福真氏)

再生可能エネルギー(以下、再エネ)の普及が世界的な課題であることは論をまたない。しかし日本では、再エネのシェアは17%程度(2018年度)にとどまっており、世界の潮流に後れを取っている。世界で導入が広がる再エネだが、日本では「主力電源」となるためには、大規模発電による大量導入と発電コストのさらなる低減が求められる。その中において、太陽光、風力、木質バイオマス、地熱といった自然エネルギーを利用した大規模発電所を自ら開発・運営しているのがレノバだ。同社のように、独立系の上場企業で、しかも再エネ事業の開発・運営を行う事業者は珍しい。

「一つ目は、地域との共存共栄です。エネルギー資源の多くは地域の自然の中にある。ですから、地域に貢献する事業であること、地域の方々の理解と協力を得ることが必要不可欠です。その地域と共に数十年という長い年月を一緒に歩む覚悟がなければ、信頼は得られません」

地域に根差した発電事業を一貫通貫で展開

レノバの事業の流れ



※実際の事業フローは、プロジェクトの特性などによって順番が前後したり、地域の人々や関係者の対話を踏まえて、行きつ戻りつ進行する場合があります